

各常任委員会所管事務調査

総務常任委員会

総務常任委員会（中野貴徳委員長、委員6人）は、3月15日、「高機能消防指令システム等の運用について」調査を行いました。

本市消防本部の高機能消防指令システム等については昨年の12月に続き、今回は司令室等に立ち入り、実際に操作をしている様子を確認しながらの調査となりました。

救急や消防要請の入電システムには24時間対応はもとより、複数の入電等が同時にあった場合でも十分に対応できる体制になっており、万が一への備えを確認できました。災害時等に消防本部周辺の電話回線が切れてしまった場合でも、衛星電話回線を通じてつながるシステムが備えてあり、通報者は通常の電話操作でも、消防本部につながる仕組みとなっていました。また、平成30年度より導入している災害用ドローンの飛



総務常任委員会

教育民生常任委員会

教育民生常任委員会（蒲生哲委員長、委員6人）は3月15日に「東日本大震災後10年が経過した子どもたちの現状について」調査を行いました。

県教委が東日本大震災などの影響で心のサポートが必要となった児童生徒を把握するために進めている調査の結果について、千葉賢一学校教育課長から説明を受けた後、委員との意見交換を行ったところです。

資料では、県内の経年変化を学年別・沿岸内陸別に分析したものなどが示され、その後、本市の「心とからだの健康観察」についての見解が説明されました。

内陸部と比べて小学校、中学校とも要サポートと判断される割合が高いことが数値ではつきり示されており、津波経験のない小学校低学年の子どもが落ち着かないのは、家族から震災時の話を繰り返し聞かされることも要因と考えられるとの説明がありまし

復興対策特別委員会

復興対策特別委員会（委員長・大坂俊副議長、議長を除く全議員で構成）は3月15日、東日本大震災の遺構として5月上旬から内部の一般公開が始まるタピック45と気仙中学校を視察しました。

委員と福田利喜議長合わせて17人が出席。市の都市計画課と観光交流課の担当職員案内で見学しました。

このうち、タピック45は震災前、旧道の駅高田松原として広く利用されてきました。委員は南側の出入り口から施設内に入り、無残にもコンクリートがむき出しとなつて、がれきが散乱した内部の様子にがくぜんとし、津波の威力に思わずため息を漏らしていました。

気仙中学校は、玄関から入って3階まで見学できるようになっており、通路として整備された場所以外は震災時のままで保存。各教室にあったはずの机や椅子のほとんどが津波によって流され、黒板には3月11日の授業の科目や出来事が書かれていました。

高田松原津波復興祈念公園内には、震災遺構としてタピック45と気仙中学

校のほか、奇跡の一本松や陸前高田ユースホステル、下宿定住促進住宅がありますが、一般公開されるのは、タピック45と気仙中学校の2施設となります。両施設を見学するには、市観光物産協会（金野靖彦会長）の研修を受講して認定されたガイドの同伴（有料）が条件となり、事前の申し込みが必要です。参加した委員は改めて震災の恐ろしさを実感し、多くの人が訪れて防災や減災の大切さを学んでもらえるよう願っていました。



タピック 45 を視察

た。学年が進むにつれ要サポートの割合が下がってきていることは、現在の学校教育がうまく機能していることなどから、あと10年は現在のサポート体制を維持したいとのことでありました。このことから、現在行われているスクールカウンセラー配置の継続も必要と感じました。

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会（鶴浦昌也委員長、委員6人）は3月16日、本市の産業振興に向けた施設園芸の在り方と課題を探るため、所管事務調査を行いました。

最初に、市農林課の中山雅之課長と中山竜一係長から議場で施設園芸の整備状況などについて説明を受けました。

それによると、市内ではミニトマトが9農家、イチゴが6農家、キュウリが22農家（いずれも法人含む）で栽培施設園芸を行うための課題はビニールハウス整備の初期投資が高額なため、本市は単独事業として振興作物推進事業



産業建設常任委員会

その後、市が米崎町に整備し、㈱J Aおおふなとアグリサービスが受託管理している大規模園芸施設を訪問。軽量鉄骨造のハウス4棟では、3棟にミニトマト、1棟でイチゴが栽培されている状況を見学しました。

委員は後継者不足が大きな課題となっている本市農業の振興に向け、何らかのヒントを得ようと担当者の説明に耳を傾けました。